

心身障害児の健康管理を考えると、発達途上にある個体として健常児と共通する点が多いが、心身障害があるために複雑になったり、余計な負担がかかることもよくある。例えば、「てんかん」を持つ小児では毎日の服薬を欠かすことができないし、安全な服薬を続けるためには、定期的に血液や尿検査を受ける必要が生じ、医療機関にかかる機会が多くなってしまう。また健常児では2～3日で回復する気道感染症に罹患した場合でも、重症心身障害児では濃厚な医療が必要となることはよく経験されることである。

一般に心身障害の程度が重度であればある程、医療機関とのかかわりが深くなる傾向があるが、その健康管理上最も大切なことは、日頃からの体力増進と、過去の病歴に照した早目早目の適切な治療を受けることであろう。

著者は昨年度、厚生省「長期疾患療育児の養護・訓練・福祉に関する総合的研究班」の班員として、種々の基礎疾患を持つ在宅心身障害児と入院心身障害児の医療ニードの差異を検討したが、重症心身障害児においては易感染性が強く、かなりの頻度で栄養状態に問題があることを共通した点として指摘した。また従来から重症心身障害児(者)病棟に入院している小児のうち、運動能力が極めて悪いか、知能が極めて悪い例では生命予後が悪いことが報じられている。

現在著者は重症心身障害児病棟に働いているが、医者として最も手が掛るのは特に運動能力が劣っている小児であり、このような小児では、決して呼吸機能が悪く、経口的に食事摂取が難しいことが多く、呼吸機能と摂取能力の改善こそが、体力増進のカギであると確信している。両機能は生命保持のための基本的な機能であり、程度の差はあれ心身障害児全般にとっても、重要な問題であろう。

以上のような視点から、本研究班の本来のテーマである「母子保健システム」ということから多少離れてしまうが、著者らの研究の一つとして、

心身障害児の呼吸機能と摂取機能について検討してゆきたいと考えている。なお心身障害児の持つ基礎疾患は種々にわたるが、著者らの研究対象は入院中のいわゆる重症心身障害児と、在宅の神経筋疾患児を中心にする予定である。

具体的な研究方法については、研究協力者からの報告があるが、重症心身障害児の呼吸機能に関しては、呼吸機能と密接に関係する側彎や胸部変形の問題が挙げられる。その頻度や程度、知能や運動能力との関係などを検討し、ゆくゆくは胸郭変形を予防するための処置、体位等をつきとめたい。またすでに変形をきたしている小児については、今後の変形をくいとめるための策を考慮したいと考えている。現在呼吸機能改善のためのいくつかのリハビリテーション的な取り組みがなされているが、その効果判定を下すための科学的な指標も作りたいところである。

摂食機能に関しては、重症心身障害児と精薄児の能力を比較し、両者の質的な差を明らかにし、最終的には重症心身障害児に対する食事指導要項みたいなものを作製したいと考えている。なお重症心身障害児の摂食機能は呼吸機能と切り離して考えることは不相当であり、両機能を結びつけて検討する方法として、食事時の表面筋電図と呼吸曲線を同時記録し、両機能の関係、問題点をつきとめてゆきたい。

神経筋疾患児においても、呼吸機能の良否は、直接的に生命予後を左右するため、呼吸機能についての研究は重要な問題である。特に経時的に呼吸機能をチェックしてゆき、基礎疾患の病相に応じた指導を行うための基礎データを集積する予定である。

心身障害児の健康管理のためのもう一つの研究課題として、心身障害児全般を対象とした健康管理手帳の作製を考えている。これは本来の病気に対するよりよい医療を受けられるようにし、また基礎疾患以外の疾病に罹患したような場合、早目早目に適切な医療を受けられるように、過去の病

歴を記録しておけるようにしたい。もし基礎疾患の治療を目的にした医療を受けている場合には、その内容が解るような記載欄をもうけたい。また発育歴、教育歴を記録できるようにしておき、家族、医療関係者、教育関係者など児にかかわる全ての人間が、できるだけ正しく児をとらえ、より健康的に、より良い療育が受けられることを可能とするための記録帳にしたいと考えている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



心身障害児の健康管理を考えると、発達途上にある個体として健常児と共通する点が多いが、心身障害があるために複雑になったり、余計な負担がかかることもよくある。例えば、「てんかん」を持つ小児では毎日の服薬を欠かすことができないし、安全な服薬を続けるためには、定期的に血液や尿検査を受ける必要が生じ、医療機関にかかる機会が多くなってしまう。また健常児では2~3日で回復する気道感染症に罹患した場合でも、重症心身障害児では濃厚な医療が必要となることはよく経験される場所である。

一般に心身障害の程度が重度であればある程、医療機関とのかかわりが深くなる傾向があるが、その健康管理上最も大切なことは、日頃からの体力増進と、過去の病歴に照した早目早目の適切な治療を受けることであろう。